

2024.05.21

埼玉版スーパー・シティプロジェクト 「共創」を実現するための心得



社会課題解決コーディネーター
秋田大介

←8年前

クワトロ・ヘリックス（四重螺旋）

デンマークでは合意形成の中で、
多種多様なステークホルダーとの対話の場をどうつくるかが非常に
重視されており、4つのセクターの垣根を越えた協働関係がデザイン
されています。

クワトロ・ヘリックス（産官学民螺旋）の考え方で4つのセクターが、
「どんな産業を育てたいか」、「どんな未来を描きたいか」といった
ビジョンや価値観を対話しながら、目的を共有し、
そしてそれぞれの強みや個性を生かしてアクションを進めています。



神戸市役所退職前の活動

一般社団法人
アスミー
代表理事

官民連携事業
研究所
社会課題解決
コーディネーター

須磨ユニバーサルビーチ
プロジェクト副理事長

KOBE
RURAL
ART
PROJECT
実行委員会代表



総務省
Ministry of Internal Affairs and Communications
地域力創造アドバイザー

KOBE
UNESCO City of Design
神戸市 環境局
環境創造課 課長

学校法人 瓜生山学園
京都芸術大学
大学院研究員

MIRA TUKU
客員研究員

2023.03.27
公務員辞めました

官民連携のノウハウを生かし起業 神戸市名物課長の視点 | Forbes JAPAN 公式サイト (フォーブ...

民間企業から公務員への転職はこのところ広がりつつある。ところが、公務員から民間企業へ転職したり、自ら独立したりするケー...
forbesjapan.com



全国注目の「すごい公務員」2人、華麗に転身

ツイート シェア

印刷



役所の手続きを簡単にしたり、まちづくりに対する市民の関心を高めたり。高い手腕で「すごい地方公務員」として全国的に注目された兵庫県内の2人がこの春、勤務していた市役所を退職し、新たな一步を踏み出した。1人は、子どものころから関心を寄せる環境問題に取り組むために起業。もう1人は、市役所で培った経験を社会で広く生かそうと、民間企業へ転じた。それぞれの決断を紹介する。(広岡磨璃)

■「副業公務員」、環境問題に挑戦

(地域の風) 広がるスーパー元公務員

2023/5/11付 | 日本経済新聞 朝刊

地域課題の解決に高い志で向き合ってきた地方公務員が職を辞し、起業に踏み切る動きが広がっている。共通するのは公務員で培った経験を生かし、公共政策を「役所」の外側から支援していることだ。前例にとられない尖(とが)った仕事が高い評価を受けてきた彼らの知見に、地方創生のヒントが詰まっている。

3月27日、約20年間勤めた神戸市役所を退職した秋田大介さんは、辞めた翌日に官民連携のコーディネートを手掛けるイマゴト(神戸市)を設立した。秋田さんは公務員時代から海水浴を楽しみたい障害者を支援するNPO法人や、被災地の自治体職員の家族を支援する一般社団法人を立ち上げるなど、神戸市の名物課長として全国でも知られる存在だった。



神戸市職員時代の経験に基づく秋田さんの講演に多くの人が熱心に耳を傾けた(4月27日、神戸市)

神戸市役所退職後の活動

一般社団法人

アスミー
 代表理事

官民連携事業
 研究所

 社会課題解決
 コーディネーター

KOBE DESIGN CENTER INC.
 神戸デザインセンター
 顧問・エリマネデザイナー

ANCHOR
 K O B E
 官民連携メンター

SUMA

 須磨ユニバーサルビーチ
 プロジェクト副理事長

KOBE
 MURAL
 ART
 PROJECT
 実行委員会代表

株式会社

イマゴト
 代表取締役

株式会社ムサン
 インタープレナー




みらいの
 たからばこ

 実行委員会アドバイザー

issue + design

 issue+designフェロー

総務省
 Ministry of Internal Affairs and Communications

 地域力創造アドバイザー

KOBE
 UNESCO City of Design

 大学都市神戸
 産官学プラットフォーム
 連携コーディネーター

学校法人 瓜生山学園
 京都芸術大学
 大学院研究員


MIRA TUKU
 客員研究員


内閣府
 Cabinet Office

 地域活性化伝道師

環境省

 きんき環境館
 アドバイザリー委員

長崎県
 庁舎跡地活用アドバイザー


兵庫県三田市
 こうみん未来塾
 スーパーアドバイザー


公務員としての経歴

担当8年

2002～2004年：都市局計画課（街路計画、立体バスターミナル）
2005～2009年：都市局工務課（震災復興事業、駅改良事業）

係長9年

2010～2012年：建設事務所（橋梁、法面、側溝、トンネル）
2011年：仙台市（東日本大震災復興支援）
2013～2018年：都市計画課（総合交通計画）
都心三宮担当（将来ビジョン）
都市計画課（立地適正化計画）

：NPO法人設立

課長4年

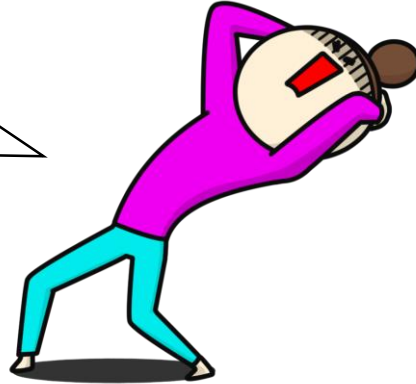
2019年：つなぐ課 特命課長（社会課題解決）
2020年：つなぐラボ特命課長（社会課題解決）
2021年：エネルギー政策課長
2022年：環境創造課長

：Art Project実行員会設立
：一般社団法人設立
：京都芸術大学大学院入学
：株式会社設立



<自治体側>

社会課題が
めちゃくちゃ複雑で
多様になってて
しかも増えてる…



なのに
使える予算は減ってるし
職員だって減らされてるし…

<企業側>

ESGとかSDGsとか
パーパス、エシカル…
評価が変わってきたな



社会課題ってビジネスチャンス!
社会の役に立つことが
企業の存続につながる

自治体と企業の目指す先は一致しているはずなのに…



自治体の声

「包括連携協定を締結したのに、具体的な進展がない」

「結局、営業目的の話が多い」

「企業の売名行為に協力しているだけなのじゃないか？」

「公共の意識を持った企業の探し方が分からない」

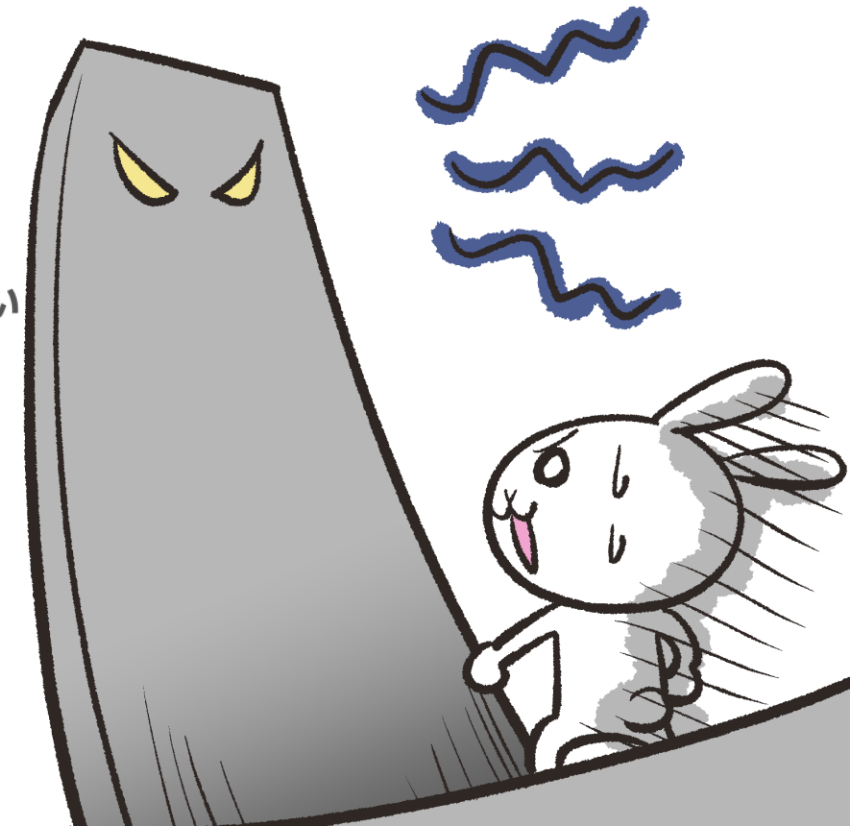
…etc.

官民連携を阻む壁

参照：東北経済産業局『官民パートナーシップを実現する100の心得』

<https://www.tohoku.meti.go.jp/kikaku/chihososei/topics/220112.html>

アイディエーションの壁	アイデアが見つからない、企画に落とし込めない・・・
前例主義の壁	前例がないと理解されない、従来のやり方を変えるには相応のエネルギー・・・
言語化の壁	姿形や成果の見えにくい事業を説明できない・・・
人材育成の壁	若手が育たない、成長の機会が不十分・・・
上司の壁	上司が話を聞いてくれない、関係者に働きかけてくれない・・・
実行主体の壁	畢竟（ひっきょう）、「誰がやるのか問題」にいきつく・・・
マッチングの壁	地域外パートナーとの接点がない、協働が生まれない・・・
公平性の壁	特定の企業・団体を“えこひいき”することが困難・・・
予算の壁	新しい事業を始めたいが“予算がない”・・・
合意形成の壁	課内→部内→庁内→議会→地域と連なる“修練” 新しい提案はなかなか通らない
意思決定の壁	決められない、辞められない・・・
文化の壁	行政と民間の間での言葉、常識、慣習、仕事の進め方等が異なる・・・
実績の壁	自分だけ目立つと“打たれる”・・・（but、ちゃんと出れば案外打たれない）
人事異動の壁	築いた信頼関係が継承されない・・・



官民連携のイメージ

お互いの強みやリソースを施策づくりに活かす
対等な立場で一緒に考える・つくる

自治体

- ・課題（ビジネスの種）
たくさんあるよ
- ・実証の場は用意できるよ
- ・信用してもらいやすいよ



民間企業

- ・解決案がたくさんあるよ
- ・これまで培ってきた
ノウハウもナレッジも使えるよ

「対話」と「小さな成功体験」の
積み上げを求められています



※中間支援の役割も重要

官民連携の肝 = インタラクティブ(双方向・相互)

行政の方へ

- ◎行政から連携を持ち掛けるだけではうまくいかない
(行政からの指示で民間が動くのは請負や委託である)
- ◎ある程度大きく開いた状態で民間の提案を待つ柔軟さ
(プロポーザル事業よりも柔らかい段階で連携)
- ◎行政が予期しない民間からの連携を受ける度量
(民間が公益的な事業を行うことの理屈をつけて協力する)
- ◎お互いの立場を分かり合えているという**信頼関係**
(官は民が負うリスクを、民は官が必要とする大義名分を分かっている)

官民連携の肝 = インタラクティブ(双方向・相互)

民間の方へ

- ◎行政の窓口部署を探すのではなく窓口になる人を探す
(正しい部署よりも、出来る人物に)
- ◎ある程度柔軟な段階での連携提案を
(スキームが決まっているものは組みにくい、他の民間も入る覚悟を)
- ◎**スモールスタート**で実績をつくる
(小さな自治体、小さくても実のある取り組み、が次を作る)
- ◎お互いの立場を分かり合えているという**信頼関係**
(官は民が負うリスクを、民は官が必要とする大義名分を分かっている)